

2009年度「NIE効果測定調査」結果報告
(2010年7月)

財団法人 日本新聞教育文化財団 博物館・NIE委員会

はじめに

当委員会は5回目となる「NIE効果測定調査」を、2009年度の新規NIE実践指定校として同年9月以降に実践を始めた248校を対象に、過去4回（96年度、98年度、02年度、05年度）とほぼ同様の調査内容・手法で実施いたしました。

調査は、NIEの実践を通じて新聞閲読、子どもたちの関心、学習態度がどのように変化したかを明らかにするため、児童・生徒にはNIE実践前と終了時の2回に分けてアンケートに答えていただき、指導教師には実践終了後に回答いただきました。2度にわたって調査にご協力いただいた実践指定校の方々には改めてお礼申し上げます。

調査結果からは、NIEの実践を通じて児童・生徒が新聞に親しみ、社会への関心を持つようになっていくとともに、新聞記事について家族や友人と対話する頻度が増えるなど、コミュニケーションのきっかけとなっていることも浮き彫りになりました。一方で、教師の新聞閲読時間が減少傾向にあるほか、教材研究のための時間不足や教科における指導内容の増加により新聞活用の時間確保が難しいなど、NIEをめぐる学校現場の環境が厳しくなっている現状も改めて示されました。

本調査で明らかになったNIE実践の効果が、広く教育行政や保護者の方々にも理解されることで、NIEに対する認知が広がり、一人でも多くの先生方がNIEに取り組むきっかけとなれば幸いです。

財団法人 日本新聞教育文化財団
博物館・NIE委員会
同委員会NIE専門部会

調査内容

(1) 調査対象

2009年度新規NIE実践指定校248校の児童・生徒および教師

(2) 調査目的

NIEの実践前と実践後で、新聞の閲読頻度、よく読む記事などの変化を分析するとともに、NIE実践を通して身に付く学習効果を明らかにする。

(3) 調査方法

郵送法(実践教師および児童・生徒が各学級単位で個人記述)

(4) 集計数

<児童・生徒>

		実践前	実践後
小学校 (59校)	男性	923	903
	女性	865	846
	計	1,788	1,749
中学校 (54校)	男性	836	817
	女性	830	815
	計	1,666	1,632
高等学校 (37校)	男性	575	577
	女性	776	738
	計	1,351	1,315
特別支援 学校 (1校)	男性	8	8
	女性	5	4
	計	13	12

(注)中高一貫校からの回答は、回答者の学年に応じ中学校または高等学校として集計した。

実践前のみ回答がある学校、集計前後で回答者・回答数が大幅に異なる学校については、集計・分析の対象から除外した。

特別支援学校については、サンプル数が少ないため表やグラフの掲載を見送った。

<教師>

	学校数	回答数
小学校	55	146
中学校	54	171
高等学校	32	119
特別支援学校	1	1
合計	142	437

(注)中高一貫校の教師からの回答は、生徒の回答の区割りと揃えた。

(5) 調査期間

2009年9月～2010年3月

(6) 調査項目

< 児童・生徒編 >

- 1 新聞の閲読頻度
- 2 新聞の閲読時間
- 3 よく読む記事
- 4 情報源
- 5 (実践前) 新聞記事をめぐる対話の頻度
(実践後) 新聞を使った授業を受けた後の新聞記事をめぐる対話頻度の変化
- 6 新聞記事をめぐる話し相手
- 7 N I E による関心の変化
- 8 学習能力の向上 (N I E 実践後に好きになったこと)
- 9 N I E の授業評価
- 10 授業で時事問題やニュースを取り上げることへの評価

< 教師編 >

- 1 新聞提供以前の新聞活用実績と N I E の経験年数
- 2 新聞の閲読時間
- 3 注意して読む記事
- 4 新聞活用頻度の変化
- 5 新聞活用実績 (教科・領域)
- 6 新聞活用実績 (教科外活動)
- 7 新聞活用後の児童・生徒の変化
- 8 N I E 授業の準備のための工夫
- 9 新聞活用の難しさと期待

調査結果

< 概要 >

NIE(新聞を活用した授業)を受ける前と受けた後で児童・生徒の新聞の読頻度(「毎日読む」と「ときどき読む」を合わせた数値)は、小学生(71.0% 80.1%)、中学生(64.7% 66.9%)、高校生(60.5% 64.0%)と、校種を問わず実践後に拡大している。同時に、読時間「5分未満」と答えた割合がすべての校種で減少しており、NIEを通じて新聞の読習慣が身に付くとともに、新聞への接し方が深まっているのではないかと推察される。

NIE実践後の児童・生徒の変化については、約75%の教師が「新聞を読むようになった」と答えており、児童・生徒の読習慣の変化を教師も実感しているようだ。このほか「記事について友人や家族と話すようになった」「自分で調べる態度が身に付く」「読む、書くことが増えた」「生き生きと学習する」の項目で、6割以上の教師が児童・生徒の学習態度の変化を感じていた。

よく読む記事は、小学生、中学生では実践前後ともに上位6種類が同じ(まんが、ラジオ・テレビ欄、スポーツ、天気予報、事件・事故、芸能)であるが、実践後は社会、科学、地域など、社会生活に関連する記事を読む割合が高まっている(詳細は7,8ページ参照)。高校生もほぼ同様の傾向だが、実践後は上位5種類の中に社会が加わってくる。さらに、新聞を使った授業を受けて関心を持つようになったことの上位に事件・事故といった社会や政治・経済の分野が入り、環境問題への関心も高まっている。70%以上の小学生・高校生、65%以上の中学生が授業で時事問題やニュースを扱うことに対し評価しており、授業で時事問題やニュースを扱うことにより、社会的な諸問題への関心が高まることうかがわれる。

他方、教師の新聞読時間は前回(2005年度)調査と比べ、「5分未満」「5分以上15分未満」「15分以上30分未満」が増え、「30分以上60分未満」「60分以上」が減るなど短縮傾向にあるほか、「新聞活用の難しさ」について、「教材研究の時間不足」「教科の指導内容が増え、新聞活用の時間の確保が難しい」など、時間不足を訴える回答が多かった。しかし、新聞活用への期待としては「社会への関心が高まること」「多面的な見方・考え方が身につくこと」などを中心に高い関心が示され、児童・生徒の回答からも、新聞活用により彼らの社会や政治・経済への関心を喚起できている実態がうかがえる。教師がNIEに期待を寄せ、結果にも結びついているにもかかわらず、新聞活用のための時間が足りないというジレンマを抱えている現状が改めて浮かび上がった。

児童・生徒が情報源として利用しているものは「テレビ」「新聞」「パソコン(インターネット)」が多い。実践前後を比較すると、新聞から情報を入手する割合は増えており、児童・生徒に新聞の有効性が認知されたことが明らかになった。今回、設問に携帯電話を加えたが、学年があがるにつれて携帯電話を含めたインターネットの利用割合が増えている。「新聞」「テレビ」「インターネット」などメディアの特性や違いを十分に教える必要がある状況も浮かび上がった。

新聞記事に関して会話する頻度については、「よく話し合う」「ときどき話し合う」を合わせると、実践前は小学生で56.1%、中学生で37.9%、高校生で39.5%だった。

た。実践後は実践前と比べて新聞記事に関する会話頻度が変化したかどうか尋ねたため設問内容が異なるが、実践前後で「ほとんど話し合わない」と答えた割合を比較すると、小学生が42.6% 22.0%、中学生が60.9% 43.1%、高校生で59.2% 52.2%とそれぞれ改善されており、新聞記事が周りの人とのコミュニケーションのきっかけとなるとともに、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成に役立っていることがうかがえる。

会話の相手は実践前では小学生・中学生・高校生ともに「家族」が最も多かったが、実践後では中学生・高校生で「友人」が「家族」を上回り、小学生でも「家族」と「友人」の差が縮まった。これらの結果からは、新聞記事に書かれた出来事について、「友人の考えを吸収し、自身の考え方と比較しようとする姿勢」が強まっていることがうかがえる。

新聞を活用している教科・領域については、小学校では「国語」が最も多く、「社会」「総合的な学習の時間(総合)」で実践されている割合が高かった。中学校では「社会・地歴・公民」「総合」「道徳」の順、高校では「社会・地歴・公民」「国語」での活用が多かった。

以 上

< 児童・生徒編 >

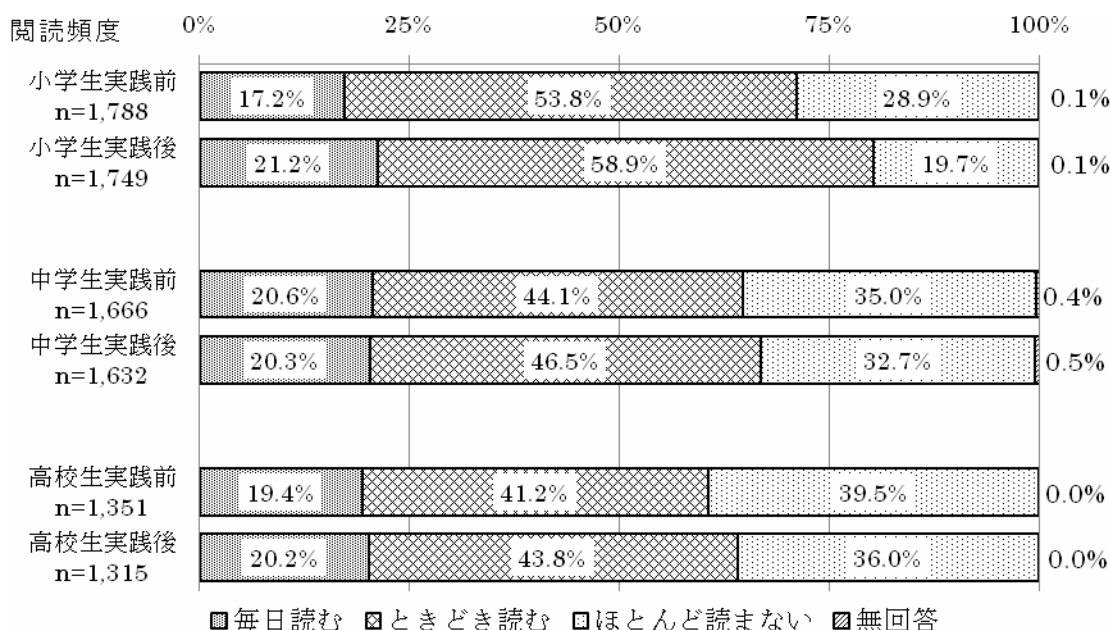
1. 閲読頻度の変化

新聞を読んでいる（「毎日読む」または「ときどき読む」）人をNIE実践前後で比較すると、小学生（71.0% 80.1%）、中学生（64.7% 66.9%）、高校生（60.5% 64.0%）を問わず、どの年代もNIEをきっかけに閲読頻度が増えている。特別支援学校の生徒についても同様だった。

小学生では「新聞をほとんど読まない」が、28.9%から実践後には19.7%に減少している。特に女子では、実践前後を比較すると「毎日読む」「ときどき読む」がそれぞれ5ポイントずつ上昇しており、積極的に新聞にかかわろうという変化が見られる。

中学生、高校生の実践前は男子の方がやや積極的な閲読傾向がみられるが、新聞を活用した授業を通じて、女子との差が縮まり、積極的に閲読しようとする傾向が高まっている。

* 各設問での表・グラフの数値は、四捨五入の関係で各回答項目の比率を合計しても、100%にならない場合がある。



	n	毎日読む	ときどき読む	ほとんど読まない	無回答
小学生男子実践前	923	19.7%	51.0%	29.1%	0.1%
小学生男子実践後	903	22.7%	56.4%	20.9%	0.0%
小学生女子実践前	865	14.5%	56.8%	28.7%	0.1%
小学生女子実践後	846	19.6%	61.7%	18.4%	0.2%
中学生男子実践前	836	23.1%	46.7%	30.0%	0.2%
中学生男子実践後	817	22.0%	48.2%	29.4%	0.4%
中学生女子実践前	830	18.2%	41.4%	40.0%	0.4%
中学生女子実践後	815	18.7%	44.8%	36.0%	0.6%
高校生男子実践前	575	24.9%	39.7%	35.5%	0.0%
高校生男子実践後	577	22.5%	44.0%	33.4%	0.0%
高校生女子実践前	776	15.3%	42.3%	42.4%	0.0%
高校生女子実践後	738	18.4%	43.6%	37.9%	0.0%

2. 閲読時間の変化

NIE実践前は、どの校種も「5分未満」が最も多かったが、実践後ではいずれも「5分未満」の割合が実践前より減少した。同時に中学生、高校生では「5～15分」の回答もわずかに減少した。すべての校種で「15～30分」「60分以上」がわずかではあるが上昇し、小学生では「5～15分」の層も増加した。

	n	60分以上	30～60分	15～30分	5～15分	5分未満	無回答
小学生実践前	1,788	0.9%	3.5%	14.9%	34.9%	44.7%	1.1%
小学生実践後	1,749	1.1%	4.8%	18.5%	37.2%	38.1%	0.3%
中学生実践前	1,666	0.5%	3.4%	11.3%	33.9%	49.6%	1.3%
中学生実践後	1,632	1.1%	3.2%	13.4%	32.3%	48.3%	1.7%
高校生実践前	1,351	0.7%	4.9%	15.1%	33.8%	45.2%	0.3%
高校生実践後	1,315	1.2%	6.4%	15.2%	33.6%	43.4%	0.2%

3. よく読む記事

実践前、実践後ともに5つまで選択してもらった。実践前は小学生、中学生、高校生ともに「ラジオ・テレビ欄」「マンガ」「天気予報」「事件・事故」「スポーツ」が「よく読む記事」の上位で、その傾向は実践後も大きな変化はなかった。上位5位に続いては「社会」「政治」「教育」「地域」など、社会生活と関連する記事が挙げられていた。校種により多少の差はあるものの、実践後にはそれらの記事を回答した割合が増えており、NIEが児童・生徒の社会に対する関心につながっている。特別支援学校の生徒にはその傾向がより強く出ており、「よく読む記事」として選択されたのは実践前が14種類だったのに対し、実践後は19種類に増えている。

	実践前		実践後	
小学生	1位	マンガ (55.9%)	1位	マンガ (57.6%)
	2位	ラ・テ欄 (49.6%)	2位	ラ・テ欄 (53.7%)
	3位	スポーツ (47.4%)	3位	スポーツ (53.6%)
	4位	天気予報 (44.6%)	4位	事件・事故 (42.3%)
	5位	事件・事故 (40.6%)	5位	天気予報 (41.6%)
中学生	1位	ラ・テ欄 (67.6%)	1位	ラ・テ欄 (66.4%)
	2位	スポーツ (46.6%)	2位	スポーツ (46.3%)
	3位	マンガ (33.5%)	3位	マンガ (33.0%)
	4位	天気予報 (33.4%)	4位	事件・事故 (29.4%)
	5位	事件・事故 (28.7%)	5位	天気予報 (29.0%)
高校生	1位	ラ・テ欄 (63.7%)	1位	ラ・テ欄 (61.4%)
	2位	スポーツ (39.4%)	2位	スポーツ (39.4%)
	3位	事件・事故 (36.8%)	3位	事件・事故 (34.8%)
	4位	天気予報 (27.8%)	4位	天気予報 (27.1%)
	5位	芸能 (24.0%)	5位	社会 (26.1%)
	6位	社会 (22.7%)	6位	政治 (24.3%)

	n	政治	経済	外国	社会	事件・事故	スポーツ	地域	教育	健康・福祉
小学生実践前	1,788	13.2%	5.5%	5.6%	11.5%	40.6%	47.4%	10.6%	12.1%	3.6%
小学生実践後	1,749	12.7%	6.7%	7.8%	14.2%	42.3%	53.6%	13.3%	13.4%	2.6%
中学生実践前	1,666	16.7%	6.4%	6.3%	13.0%	28.7%	46.6%	11.2%	11.0%	0.7%
中学生実践後	1,632	16.1%	9.1%	7.5%	15.4%	29.4%	46.3%	11.5%	18.9%	1.5%
高校生実践前	1,351	22.4%	12.5%	10.1%	22.7%	36.8%	39.4%	12.4%	13.0%	3.6%
高校生実践後	1,315	24.3%	14.8%	12.5%	26.1%	34.8%	39.4%	15.6%	16.7%	4.2%

	n	科学	文化・芸術	家庭	読書欄	芸能欄	投書欄	社説・評論	コラム	対談
小学生実践前	1,788	12.0%	5.7%	5.1%	6.4%	23.2%	0.8%	0.4%	1.0%	0.3%
小学生実践後	1,749	13.2%	7.7%	5.3%	7.5%	26.0%	2.6%	0.8%	2.5%	0.1%
中学生実践前	1,666	4.9%	5.0%	1.2%	4.7%	23.5%	2.6%	2.0%	1.2%	0.5%
中学生実践後	1,632	5.9%	5.8%	2.0%	5.1%	24.8%	3.5%	2.8%	1.7%	1.0%
高校生実践前	1,351	4.7%	8.0%	2.4%	4.0%	24.0%	3.7%	6.8%	5.8%	0.7%
高校生実践後	1,315	5.3%	8.6%	3.3%	5.0%	24.0%	3.9%	8.1%	5.9%	0.5%

	n	インタビュー	ラ・テ欄	俳句・短歌	囲碁・将棋	趣味・娯楽	マンガ	天気予報	広告	その他
小学生実践前	1,788	5.1%	49.6%	2.0%	4.3%	2.9%	55.9%	44.6%	17.8%	2.9%
小学生実践後	1,749	6.1%	53.7%	2.5%	5.1%	4.4%	57.6%	41.6%	18.8%	2.7%
中学生実践前	1,666	5.8%	67.6%	2.3%	2.2%	5.8%	33.5%	33.4%	14.2%	3.2%
中学生実践後	1,632	5.9%	66.4%	1.8%	1.7%	5.9%	33.0%	29.0%	17.3%	2.1%
高校生実践前	1,351	5.8%	63.7%	1.0%	1.9%	6.6%	18.8%	27.8%	10.4%	3.6%
高校生実践後	1,315	6.2%	61.4%	1.1%	1.9%	6.7%	17.9%	27.1%	12.7%	2.7%

4. 情報源

「地域・地元のできごと」「自分が住んでいるところ以外の、日本国内のできごと」「外国のできごと」「スポーツニュース」のそれぞれについて、情報源として利用するものを3つまで挙げてもらった。実践前後を通じ、すべての校種で「テレビ」「新聞」「パソコン」「家族に聞く」と答える人が多かった。また、学年があがるにつれ、パソコンや携帯電話を用いてインターネットから情報を入手することが多くなっている。

新聞については、実践前後を比較すると高校生の「スポーツニュース」を除いた全項目で情報源の一つとして利用している割合が増えている。

新聞を情報源とする児童・生徒

	小学生実践前	小学生実践後	中学生実践前	中学生実践後	高校生実践前	高校生実践後
地域ニュース	39.8%	51.7%	36.5%	42.5%	37.1%	41.8%
国内ニュース	49.6%	59.2%	46.5%	51.2%	48.6%	53.9%
海外ニュース	44.3%	54.4%	35.4%	40.7%	33.2%	40.6%
スポーツニュース	64.2%	72.0%	52.9%	56.6%	49.1%	48.7%

インターネット（パソコン＋携帯電話の合計）を情報源とする児童・生徒

	小学生実践前	小学生実践後	中学生実践前	中学生実践後	高校生実践前	高校生実践後
地域ニュース	38.0%	39.6%	38.0%	39.9%	46.7%	51.7%
国内ニュース	41.0%	45.0%	56.8%	62.3%	79.5%	82.0%
海外ニュース	38.2%	45.6%	55.2%	61.7%	77.7%	80.8%
スポーツニュース	32.2%	36.7%	48.5%	52.4%	63.5%	65.8%

地域ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	パソコン	携帯電話	友達	家族	先生	行政 広報	無回 答
小学生実践前	1,788	39.8%	8.7%	13.3%	63.1%	5.5%	33.4%	4.6%	18.7%	53.5%	7.3%	9.4%	1.2%
小学生実践後	1,749	51.7%	9.7%	11.5%	64.3%	4.2%	34.6%	5.0%	18.4%	50.3%	9.1%	9.1%	0.2%
中学生実践前	1,666	36.5%	6.5%	6.6%	55.0%	2.5%	30.7%	7.3%	26.3%	51.3%	7.7%	19.1%	1.5%
中学生実践後	1,632	42.5%	7.6%	6.5%	57.1%	3.4%	31.6%	8.3%	29.2%	49.0%	7.2%	16.1%	0.7%
高校生実践前	1,351	37.1%	5.1%	4.8%	49.6%	1.6%	29.2%	17.5%	29.5%	51.7%	4.7%	19.8%	1.6%
高校生実践後	1,315	41.8%	5.0%	4.1%	48.2%	2.3%	31.2%	20.5%	28.7%	47.9%	6.2%	18.7%	0.8%

国内ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	パソコン	携帯電話	友達	家族	先生	行政 広報	無回 答
小学生実践前	1,788	49.6%	7.4%	10.3%	80.2%	7.4%	36.2%	4.8%	8.7%	39.0%	4.6%	1.1%	0.8%
小学生実践後	1,749	59.2%	8.8%	10.8%	82.7%	6.1%	39.3%	5.7%	9.4%	36.2%	5.6%	0.9%	0.2%
中学生実践前	1,666	46.5%	8.1%	5.5%	85.1%	3.7%	47.7%	9.1%	11.1%	26.0%	4.9%	1.1%	1.1%
中学生実践後	1,632	51.2%	8.5%	5.3%	83.8%	4.1%	49.8%	11.5%	13.1%	25.5%	5.0%	0.9%	0.9%
高校生実践前	1,351	48.6%	7.0%	5.3%	82.9%	3.0%	46.9%	32.6%	9.8%	18.7%	2.7%	0.7%	1.4%
高校生実践後	1,315	53.9%	6.2%	3.7%	80.8%	4.0%	47.6%	34.4%	9.4%	19.2%	3.5%	0.8%	0.3%

海外ニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	パソコン	携帯電話	友達	家族	先生	行政 広報	無回 答
小学生実践前	1,788	44.3%	6.1%	9.8%	79.6%	6.8%	34.1%	4.1%	7.2%	31.7%	3.8%	1.0%	2.0%
小学生実践後	1,749	54.4%	5.9%	10.4%	82.3%	6.5%	40.7%	4.9%	6.0%	29.8%	5.6%	0.3%	0.8%
中学生実践前	1,666	35.4%	5.9%	7.0%	83.7%	2.6%	47.9%	7.3%	7.6%	19.9%	3.9%	0.4%	1.8%
中学生実践後	1,632	40.7%	6.3%	6.0%	82.6%	3.2%	51.7%	10.0%	10.4%	19.0%	5.3%	0.4%	1.0%
高校生実践前	1,351	33.2%	6.2%	5.6%	80.4%	2.1%	52.0%	25.7%	6.7%	13.5%	2.5%	0.4%	1.9%
高校生実践後	1,315	40.6%	7.5%	4.9%	79.8%	2.4%	50.8%	30.0%	5.9%	13.0%	4.1%	0.3%	0.7%

スポーツニュース	n	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	パソコン	携帯電話	友達	家族	先生	行政 広報	無回 答
小学生実践前	1,788	64.2%	11.4%	8.2%	86.9%	7.2%	28.5%	3.7%	11.1%	26.9%	1.9%	0.3%	1.4%
小学生実践後	1,749	72.0%	12.5%	7.0%	87.3%	5.8%	32.4%	4.3%	12.6%	25.1%	2.7%	0.2%	0.6%
中学生実践前	1,666	52.9%	11.5%	4.7%	86.2%	4.0%	39.7%	8.8%	17.3%	17.1%	2.0%	0.3%	1.8%
中学生実践後	1,632	56.6%	10.8%	4.7%	86.7%	3.9%	42.2%	10.2%	18.0%	17.8%	2.3%	0.4%	1.0%
高校生実践前	1,351	49.1%	9.9%	3.0%	86.4%	2.4%	35.7%	27.8%	13.4%	10.9%	1.1%	0.4%	1.9%
高校生実践後	1,315	48.7%	10.0%	2.7%	85.9%	2.9%	36.0%	29.8%	15.4%	12.4%	1.1%	0.3%	1.0%

5. 新聞記事をめぐる対話の頻度（実践前）

新聞を使った授業を受けた後の新聞記事をめぐる対話頻度の変化（実践後）

実践前は「新聞記事の内容について誰かと話をする頻度」を、実践後調査では「新聞を使った授業を受ける前と比べ、新聞で読んだことについて話し合う回数の変化」を尋ねた。

N I E 実践前に「ほとんど話し合わない」と答えた人の割合は、小学生で42.6%、中学生で60.9%、高校生で59.2%だったのに対し、実践後の調査では、この割合はいずれの校種でも減少した。新聞記事を話題にする機会が増えていることがうかがわれる。

（実践前）

	n	よく話し合う	ときどき話し合う	ほとんど話し合わない	無回答
小学生実践前	1,788	7.6%	48.5%	42.6%	1.3%
中学生実践前	1,666	4.0%	33.9%	60.9%	1.3%
高校生実践前	1,351	4.1%	35.4%	59.2%	1.3%

（実践後）

	n	増えた	話し合うが回数は変わらない	ほとんど話し合わない	無回答
小学生実践後	1,749	30.1%	47.3%	22.0%	0.7%
中学生実践後	1,632	12.9%	41.5%	43.1%	2.5%
高校生実践後	1,315	12.1%	35.1%	52.2%	0.7%

6. 記事をめぐる話し相手

「新聞で読んだことを誰と話すか」を尋ねたところ、NIE実践前後ともに「家族」または「友人」を挙げる回答が多かった。実践前は小学生、中学生、高校生いずれも「家族」が最も多かったが、実践後になると中学生、高校生で「家族」が減少し、「友人」の割合が最も高くなった。

男女の傾向を比較すると、中学生男子、高校生男子は実践前後ともに「友人」が「家族」を上回った。この「友人」と「家族」の差は、中学生男子の実践前は17.2ポイントで実践後は31.4ポイント、高校生男子の実践前12.1ポイントに対し実践後は24.0ポイントといずれも大幅に増えている。これに対し、女子は小学生、中学生、高校生いずれも実践前後ともに「家族」が「友人」を上回っている。しかし、実践前と実践後で「家族」と「友人」の差は大幅に縮まっている。

	家族		友人		先生		その他	
	実践前	実践後	実践前	実践後	実践前	実践後	実践前	実践後
小学生全体	66.4%	69.6%	42.4%	58.8%	3.1%	10.9%	2.0%	2.5%
小学生男子	61.8%	66.9%	46.2%	59.0%	3.6%	11.0%	1.6%	3.4%
小学生女子	71.0%	72.4%	38.7%	58.7%	2.6%	10.9%	2.4%	1.6%
中学生全体	56.7%	44.8%	53.3%	58.1%	2.5%	3.7%	1.3%	0.9%
中学生男子	45.1%	36.0%	62.3%	67.4%	2.8%	3.5%	1.5%	1.4%
中学生女子	69.0%	55.4%	43.8%	47.0%	2.3%	4.0%	1.0%	0.2%
高校生全体	63.5%	49.8%	47.9%	52.7%	2.6%	2.1%	0.6%	1.5%
高校生男子	48.9%	38.2%	61.0%	62.2%	1.8%	2.9%	0.9%	2.9%
高校生女子	74.0%	59.1%	38.6%	45.2%	3.2%	1.4%	0.3%	0.3%

(実践前)

小学生全体 n=1,004
 小学生男子 n=500
 小学生女子 n=504
 中学生全体 n=630
 中学生男子 n=324
 中学生女子 n=306
 高校生全体 n=534
 高校生男子 n=223
 高校生女子 n=311

(実践後)

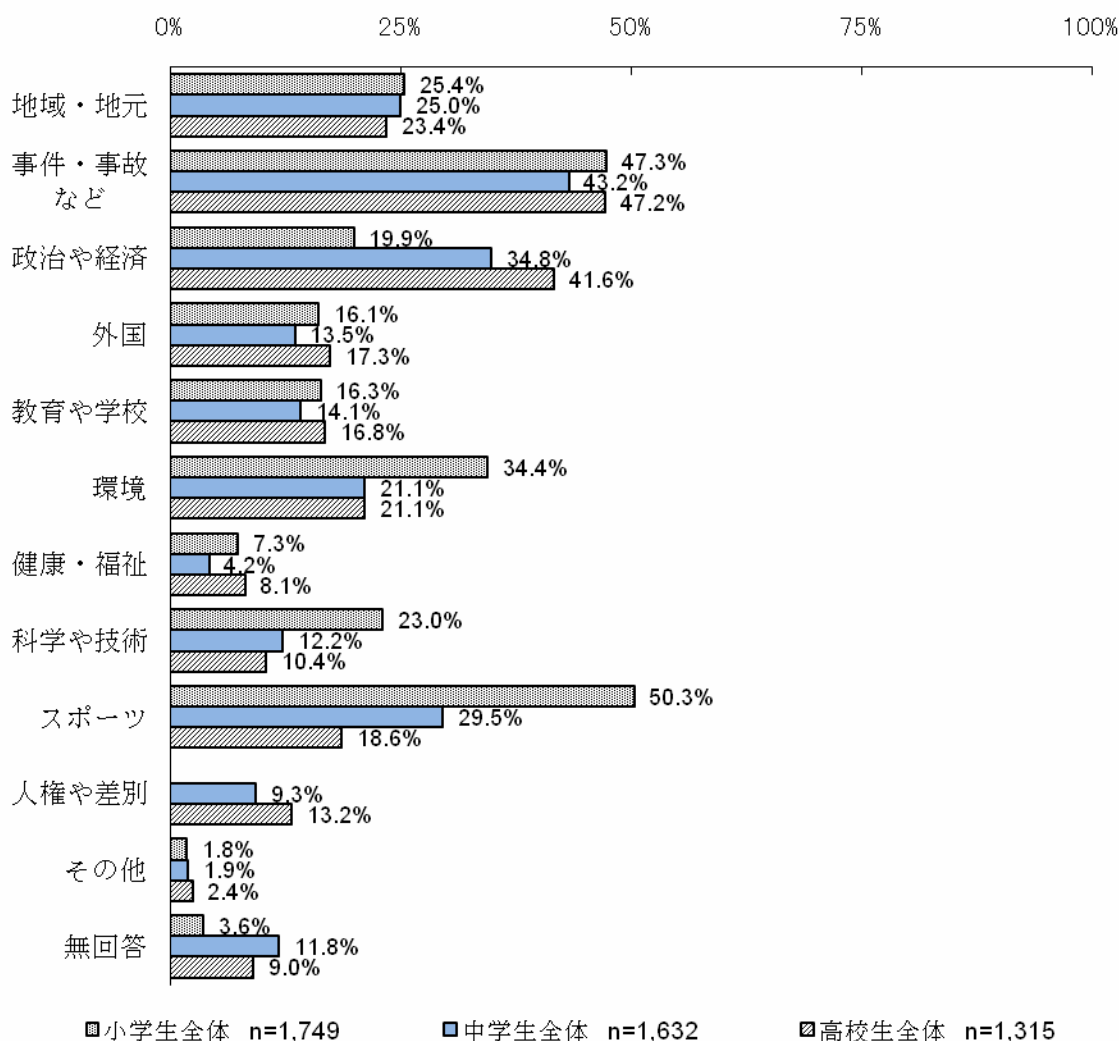
小学生全体 n=1,353
 小学生男子 n=683
 小学生女子 n=670
 中学生全体 n=888
 中学生男子 n=484
 中学生女子 n=404
 高校生全体 n=620
 高校生男子 n=275
 高校生女子 n=345

7. NIEによる関心の変化 *以降の質問は実践後のみの質問

NIEの授業を受けて、関心を持つようになった事柄を3つまで挙げてもらった。校種を問わず「事件・事故」の割合が高く、特に中学生、高校生では最も高い数字となり、日々のニュースに対する関心の高さをうかがわせる。小学生は「スポーツ」が「事件・事故」を上回って最も高いが、「事件・事故」に次いで「環境」(34.4%)「地域・地元のこと」(25.4%)「科学」(23.0%)と続いている。中学生、高校生になると「事件・事故」に次いで「政治・経済」が挙がり(中学生:34.8%、高校生:41.6%)中学生は「政治・経済」以下は「スポーツ」(29.5%)「地域・地元のこと」(25.0%)と続き、高校生では「地域・地元のこと」(23.4%)「環境」(21.1%)の順となっている。

小学生は総じてどの事柄においても関心が高く、新聞を通じていろいろな事に興味を持つようになっているほか、中学生、高校生では「政治・経済」への関心が高まっている。男女で比較すると「政治・経済」「科学・技術」「スポーツ」は男子の方が関心が高く、「教育、学校」「健康、福祉」「人権、差別」では女子の方が関心が高い。

NIEによる関心の変化



	n	地域・地元	事件・事故 など	政治や経済	外国のこと	教育や学校	環境
小学生男子	903	24.0%	47.8%	21.5%	17.4%	11.4%	26.5%
小学生女子	846	27.0%	46.7%	18.2%	14.8%	21.5%	42.8%
中学生男子	817	24.4%	41.7%	36.1%	13.8%	11.0%	22.4%
中学生女子	815	25.6%	44.7%	33.5%	13.1%	17.2%	19.9%
高校生男子	577	24.3%	44.2%	43.8%	17.7%	13.2%	21.1%
高校生女子	738	22.8%	49.6%	39.8%	17.1%	19.6%	21.1%

	n	健康・福祉	科学や技術	人権や差別	スポーツ	その他
小学生男子	903	5.3%	26.0%	-	58.7%	1.4%
小学生女子	846	9.3%	19.9%	-	41.3%	2.2%
中学生男子	817	2.0%	17.0%	7.3%	37.3%	1.6%
中学生女子	815	6.4%	7.4%	11.3%	21.6%	2.2%
高校生男子	577	4.7%	12.3%	10.1%	26.0%	2.6%
高校生女子	738	10.7%	8.9%	15.7%	12.9%	2.2%

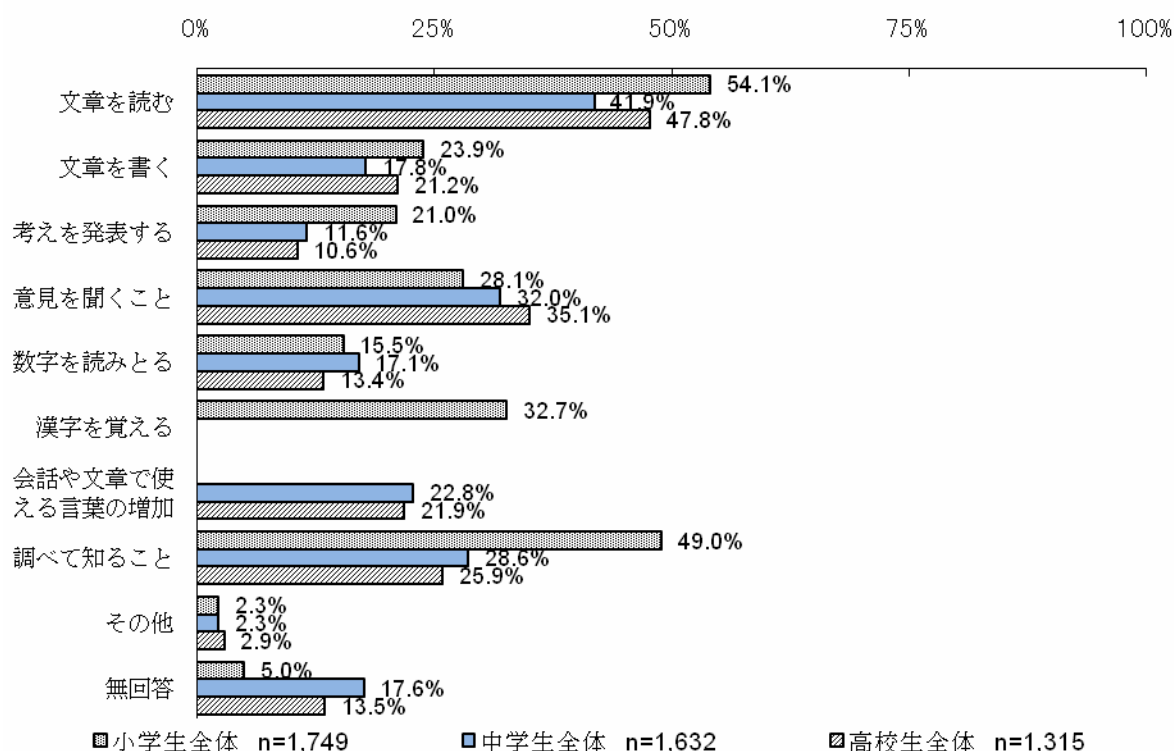
* 人権・差別については中学生、高校生のみ聞いた

8. 学習能力の向上 (NIE実践後に好きになったこと)

NIEの授業を受けて好きになったことを3つまで挙げてもらった。小学生、中学生、高校生ともに「文章を読むこと」(中学生、高校生は「文章を読んで内容を理解すること」)が最も多く挙げられた。これ以降は、小学生では「自分で調べて詳しく知ること」「漢字を覚えること」「他人の意見を聞くこと」の順に続き、中学生、高校生はともに「他人の意見を聞くこと」「自分で調べて詳しく知ること」「会話や文章で使える言葉が増えた」の順となった。児童・生徒にとり、新聞活用が文章の読解力や語彙力の向上、コミュニケーション能力の育成、調べ学習などに有効であることがわかる。

男女別で比較すると、「数字を読み取ること(小学生) 数字やデータを読み取ること(中学生、高校生)」「考えを発表すること」は男子が多く、「意見を聞くこと」は女子が多かった。

NIEで好きになったこと



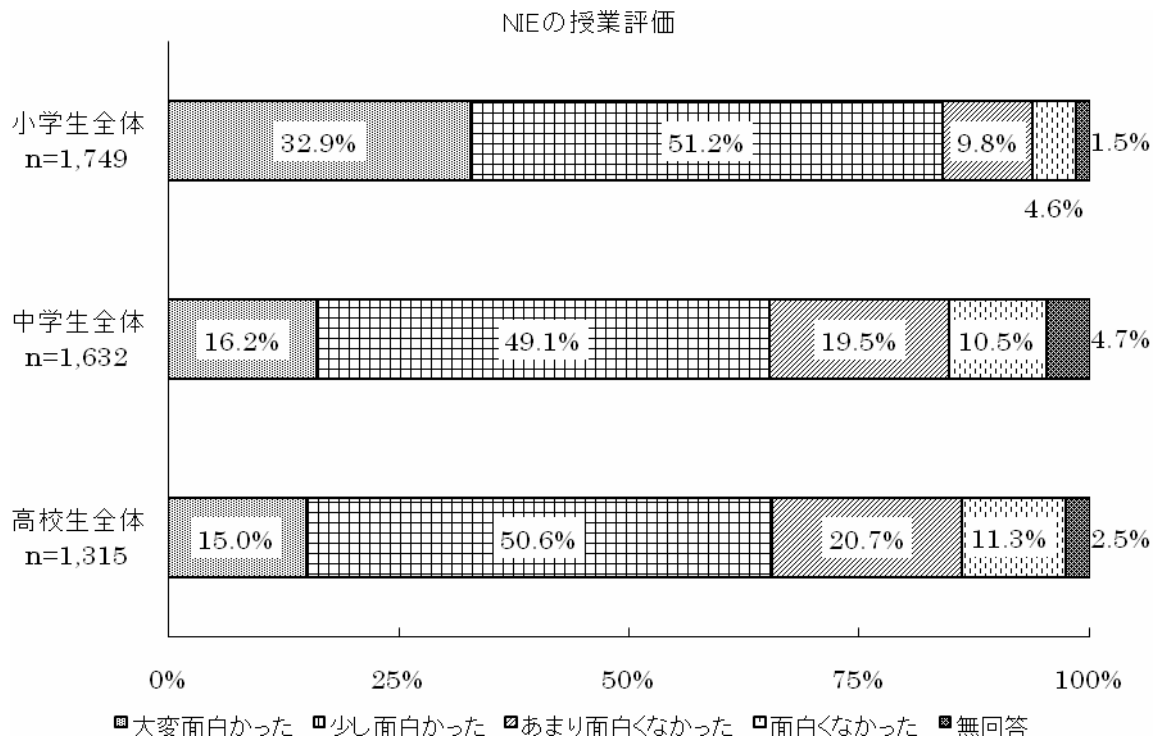
* 「漢字を覚えること」は小学生のみ、「会話や文章で使える言葉が増えた」は中学生、高校生のみ聞いた

	n	文章を読む	文章を書く	漢字を覚える	数字を読みとる	考えを発表する	意見を聞く	調べて知る	その他
小学生男子	903	49.6%	18.4%	33.6%	20.5%	23.5%	27.8%	48.5%	1.9%
小学生女子	846	59.0%	29.8%	31.8%	10.2%	18.4%	28.5%	49.5%	2.8%

	n	文章の内容を理解する	考えを文章にまとめる	考えを発表する	意見を聞く	数字やデータを読みとる	使える言葉が増えた	調べて知る	その他
中学生男子	817	42.7%	18.0%	14.3%	30.7%	21.9%	19.3%	29.3%	2.3%
中学生女子	815	41.0%	17.5%	9.0%	33.4%	12.3%	26.3%	27.9%	2.3%
高校生男子	577	47.7%	22.4%	13.2%	31.0%	16.1%	23.4%	25.5%	3.6%
高校生女子	738	47.8%	20.3%	8.7%	38.2%	11.2%	20.7%	26.2%	2.3%

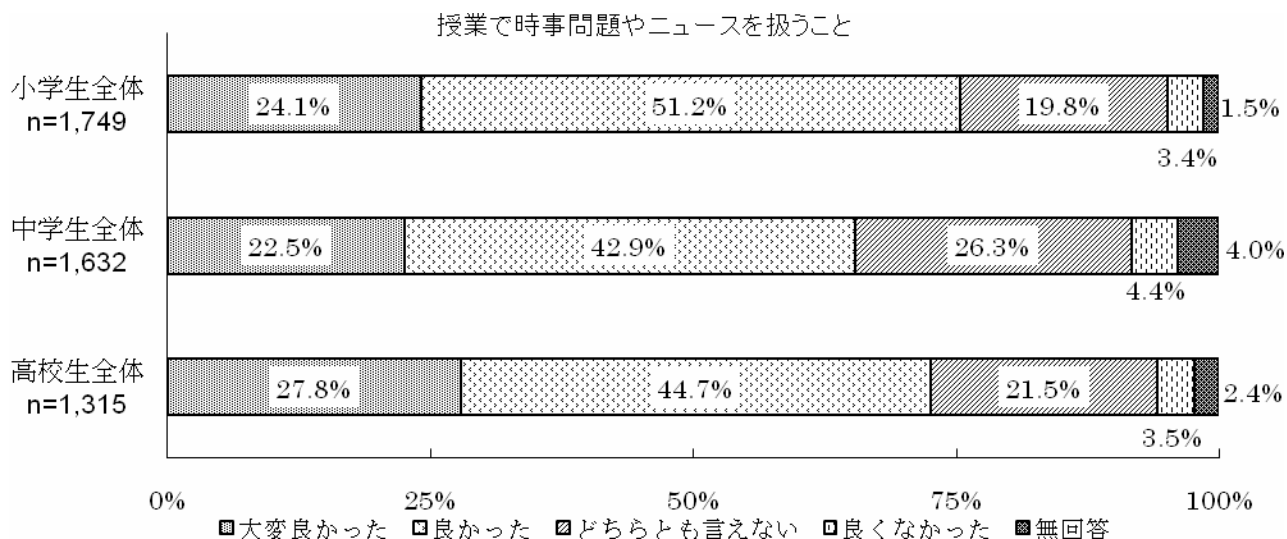
9. NIEの授業評価

NIE実践後に新聞を使った授業について聞いたところ、小学校の84.1%、中学校の65.3%、高校の65.6%の児童・生徒が面白かった(「大変面白かった」「少し面白かった」の合計)と答え、新聞が魅力ある教材であることが明らかになっている。



10. 授業で時事問題やニュースを取り上げることの評価

授業で時事問題やニュースを取り上げることについては、校種にかかわらず高く評価されている。「大変良かった」と「良かった」と答えた人の合計は、小学生で75.3%、中学生で65.4%、高校生で72.5%となっている。また「良くなかった」と答えた割合は5%台を割り非常に少なかった。

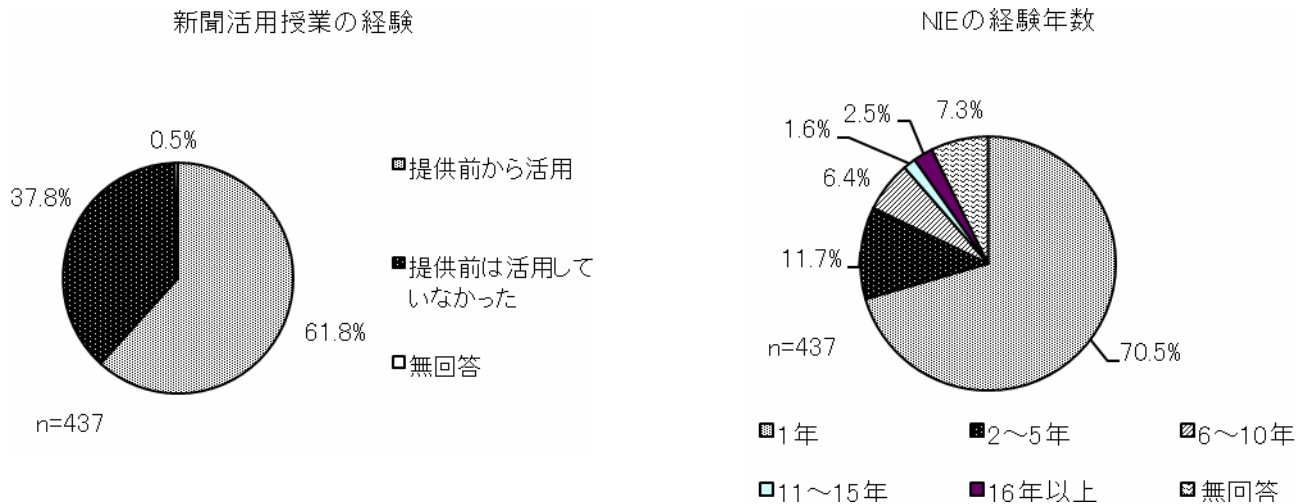


< 教師編 >

1. 財団からの新聞提供以前のNIE実践

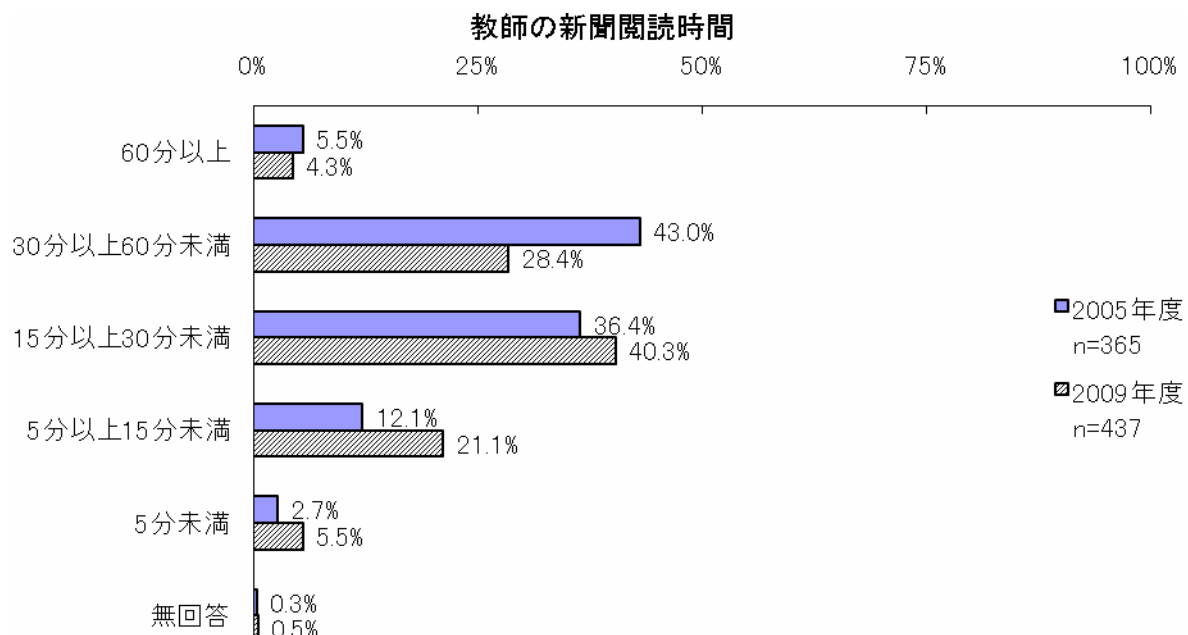
財団の新聞提供を受ける前から授業や他の教育活動で新聞を活用していた教師は6割以上で、新聞が教材として有益であることは広く認知されているといえる。

NIEの授業を始めてどのくらいかとの設問に対し「1年」との回答が7割を超えた。これに「2～5年」を合わせると、全体の約8割がNIEの授業年数が5年以内となった。



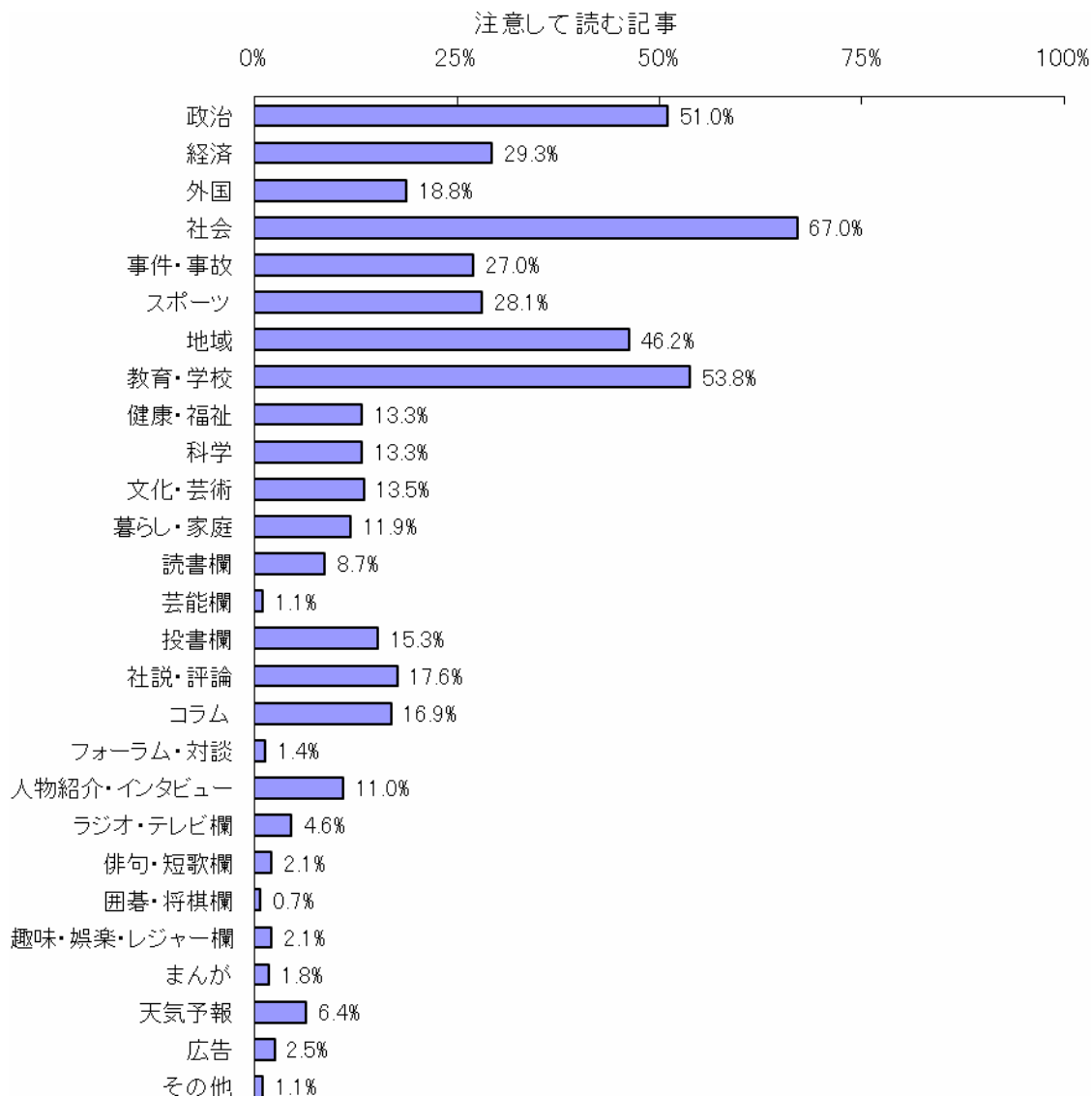
2. 新聞閲読時間

新聞閲読時間については「15分以上30分未満」と答えた人が40.3%で最も多く、「30分以上60分未満」(28.4%)、「5分以上15分未満」(21.1%)の順に続いている。



3. 新聞の読み方の変化（注意して読む記事）

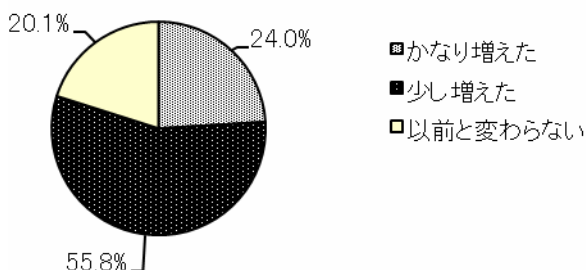
財団による新聞提供が始まってからどのような記事を注意して読むようになったかを尋ねたところ、最も注目されているのは「社会」(67.0%)で、これに「教育・学校」(53.8%)「政治」(51.0%)、「地域」(46.2%)を加えた4項目への関心が特に高かった。それらに続くのは経済、スポーツ、事件・事故となっている。



4. 新聞活用動向

財団による新聞提供が始まってから新聞を活用する回数が増えた(「かなり増えた」と「少し増えた」人の合計)と答えた人は約8割となった(79.8%)。財団の新聞提供を一つのきっかけとして、積極的に新聞を活用していることがうかがえる。

新聞活用動向



5. 新聞活用実績(教科・領域)

実際に学校に新聞が提供(9月から3月までの約半年間)されてから、NIEの実践教科・領域ならびに授業時間の合計を尋ねた。

(1) 教科

小学校では「国語」で68.5%と最も新聞が活用されており、「社会」(61.6%)、「総合学習」(60.3%)の順が続いている。中学校では「社会・地歴・公民」(31.0%)、「総合学習」(25.1%)、「道徳」(18.1%)、「国語」(17.5%)でよく活用されており、高校では「社会・地歴・公民」(21.8%)、「国語」(16.8%)が多かったほか、「商業」を中心に「専門科目」(12.6%)での新聞活用が目立った。

前回調査と比較すると、小学校、中学校における「道徳」での実践の割合が大幅に増えており(小学校:10.9%→19.2%、中学校:4.5%→18.1%)、新聞が道徳教材として有効であると考えられる教師が増えている。

	小学校 n=146		中学校 n=171		高校 n=119	
国語	100	68.5%	30	17.5%	20	16.8%
社会・地歴・公民	90	61.6%	53	31.0%	26	21.8%
算数・数学	7	4.8%	4	2.3%	5	4.2%
理科	20	13.7%	11	6.4%	5	4.2%
生活	10	6.8%				
音楽	1	0.7%	2	1.2%	0	0.0%
図工・美術	5	3.4%	4	2.3%	0	0.0%
外国語	2	1.4%	4	2.3%	7	5.9%
家庭・技術・家庭	4	2.7%	7	4.1%	4	3.4%
体育・保健体育	9	6.2%	6	3.5%	9	7.6%
情報					2	1.7%
道徳	28	19.2%	31	18.1%		
特別活動	5	3.4%	3	1.8%	0	0.0%
総合学習	88	60.3%	43	25.1%	9	7.6%
専門科目					15	12.6%
学校設定科目					5	4.2%
無回答	4	2.7%	21	12.3%	17	14.3%

(2) NIE実践授業時間

5時間未満	36.6%
5～9時間	25.6%
10～14時間	15.6%
15～19時間	8.2%
20～24時間	4.3%
25～29時間	0.7%
30～34時間	1.4%
35～39時間	0.0%
40～44時間	0.2%
45～49時間	0.5%
50時間以上	1.4%
無回答	5.5%

最も多かったのが「5時間未満」の36.6%、続いて「5～9時間」(25.6%)、「10～14時間」(15.6%)となっている。8割以上の教師が「20時間未満」で実践を行っていた。

前回調査(20時間未満:65.2%)と比較すると、「20時間未満」の回答が大きく増えており、NIEの授業時間数の確保がさらに難しくなっていることが浮き彫りになった。

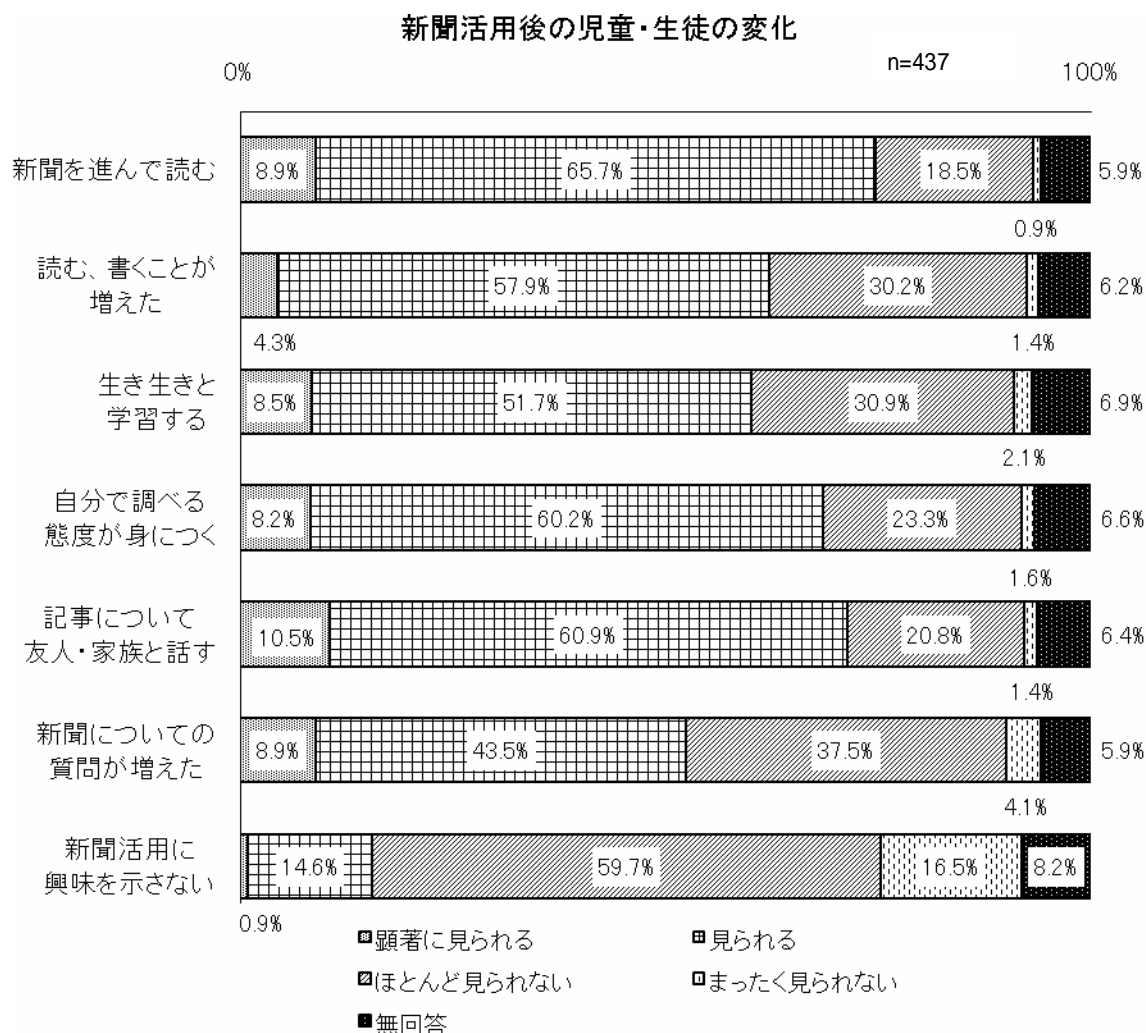
6. 新聞活用実績(教科外活動)

教科外活動でどのように新聞を活用したかを自由記入形式で尋ねた。

小学校、中学校、高校ともに「朝または帰りのホームルームでのスピーチ活動」「委員会、係、教職員などによる記事の掲示」が多かった。高校では、進路に関する情報提供に活用しているケースも多く見られた。

7. 新聞活用後の児童・生徒の変化

NIEの実践を通して、児童・生徒にどんな変化が見られたかを尋ねた。教師が最も感じた児童・生徒の変化は「新聞を進んで読むようになった」(「顕著に見られる」と「見られる」の合計)で、約75%の教師が回答した。このほか、「記事について友人や家族と話すようになった」(71.4%)「自分で調べる態度が身に付く」(68.4%)「読む、書くことが増えた」(62.2%)「生き生きと学習する」(60.2%)の項目で、6割以上の教師が児童・生徒の学習態度の変化を感じている。



8. NIE授業の準備のための工夫

授業や教科外活動で新聞を活用するにあたり、どのような工夫をしたかを自由記入形式で尋ねた。

校種を問わず多かったのは「活用できそうな記事などをスクラップする(ふせんを張る、ファイルするなどを含む)過去の実践事例を調べる」が大半を占めた。これらのほかには、「職員間で活用法について話し合う」「授業で使える記事の見出しをまとめたものをA4判1枚で教職員に配布」といった校内での情報共有や「校外の研究会への参加」のほか、「学級だよりで、活動の様子を保護者に知らせる」といった家庭への情報提供を行って

る教師も散見された。

9. 新聞活用の難しさと期待

新聞を教材として活用する際の難しさについて、1位から3位まで順位をつけて答えてもらった。「教材研究の時間が足りない」を1位と回答した教師が最も多く(28.4%)、「教科の指導内容が増え、新聞活用の時間の確保が難しい」(25.9%)とあわせると、時間の確保に苦労している様子がうかがえる。

前回2005年の調査と回答項目が異なるので単純比較は出来ないが、教材研究や指導時間といった「時間の確保が難しい」ことや「カリキュラムとの調整」「新聞記事は難しい」といったことがNIE実践の大きな課題として残っている。

新聞活用の難しさ n=437

	1位	2位	3位
教材研究の時間が足りない	28.4%	23.3%	16.9%
新聞活用の時間の確保が難しい	25.9%	26.3%	10.1%
使いたい記事が見つけれない	9.4%	11.9%	10.5%
カリキュラムとの調整が難しい	16.2%	15.8%	15.1%
指導方法が分からない	1.4%	4.3%	10.3%
児童・生徒にとって新聞記事は難しい	11.7%	10.1%	16.2%
総合的な学習の時間が削減された	0.9%	1.8%	6.2%
その他	2.1%	0.2%	2.1%

新聞活用で期待することを、1位から3位まで順位をつけて選んでもらった。最も期待されているのは「社会への関心を高める」ことで、5割近くの教師が1位に挙げている。その他、「多面的な見方・考え方が身に付く」「文章の読解力・表現力が向上する」ことへの期待が高い。

新聞提供が始まってからの児童・生徒の記事に対する関心の変化(12ページ)をみると、実践後に最も関心を持つようになったのは「事件・事故」の記事だったほか、政治・経済や環境など、社会的な問題への関心も高まっていた。また、NIE実践後に好きになったこと(14ページ)では、「文章を読むこと」「文章を読んで内容を理解すること」「人の意見を聞くこと」「使える言葉が増えた(中学生・高校生のみ)」の割合が高く、教師がNIEに期待している役割の一つを新聞提供事業が果たしている様子がうかがえる。

新聞活用で期待すること n=437

	1位	2位	3位
授業が活性化すること	8.0%	4.6%	7.8%
社会への関心が高まること	48.5%	16.5%	10.8%
多面的な見方・考え方が身につくこと	14.4%	30.9%	16.5%
文章の読解力・表現力が向上すること	8.7%	18.8%	19.0%
批判力・判断力が育つこと	1.8%	8.2%	11.9%
新聞に興味・関心をもつこと	12.4%	10.1%	12.6%
友人・家族との意見交換が活発になること	0.7%	4.8%	9.6%
児童・生徒の学習意欲が高まること	1.8%	2.3%	7.1%
新聞活用に期待しない	0.0%	0.0%	0.2%
その他	0.5%	0.0%	0.0%

